

ゆうこう便り

発行:北口雄幸事務所
士別市東7条9丁目
Tel0165-22-3100
fax0165-23-4356

ふるさと 郷土を大切に政治を

安倍政権は大都市や大企業優遇の政治！



それは、特定秘密保護法に象徴される国会運営であり、その結果でも明らかです。安倍政権は、『国民よりも国家を』『生活者や働く者よりも大企業を』『地方よりも大都会を』大切・優遇するなど、その姿勢を鮮明にしており、安倍政権の継続は、危険な日本と同時に、弱者や地方の疲弊を意味するものです。



謹賀新年

新年明

おめでと
けまして

うございます。輝かしい新年をお迎えのことと、心よりお喜び申し上げます。

さて、衆参でのねじれを解消した安倍政権は、羊の皮を脱ぎ捨て、オオカミの本性を現しました。

り、国民の声を無視しての強行採決には、多くの疑念が寄せられており、この事はマスコミ各社の世論調査の結果でも明らかです。安倍政権は、『国民よりも国家を』『生活者や働く者よりも大企業を』『地方よりも大都会を』大切・優遇するなど、その姿勢を鮮明にしており、安倍政権の継続は、危険な日本と同時に、弱者や地方の疲弊を意味するものです。

このまま、安倍政権が続くならば、地方の衰退に拍車がかかり、都市と地方の格差や弱者への負担は、よ

また、安倍政権は、民主党政権で確立した戸別所得補償制度を見直し、日本型直接支払制度を創設するつもりです。これは、約半世紀にわたり続いた米の生産調整（減反）を見直し、米価は市場価格にゆだね、生産者自ら生産数量を決めるというものです。生産調整の廃止で、米価の下落は必死であり、この影響は大規模農家ほど大きなものになります。何よりも、これらの政策決定にあたっては、生産者の声を聞かず、産業競争力

また、年内妥結を目指していたTPPについては、アメリカとの二国間協議などが整わず、越年することになりました。しかし、安倍政権の前のめりの姿勢は変わらず、引き続きTPP反対を貫いていかなければなりません。安倍政権の暴走を止めるには、民主党の役割は大きいものと感じ、一地方議員としてその役割をしっかりと果たしていく決意です。

二〇一四年
夢に向って



第4回定例道議会報告(11月28日~12月12日)

第4回定例道議会は、11月28日開会。平成25年度道補正予算、「TPP協定への参加に関する意見書」、「経営所得安定対策の見直し及び日本型直接支払制度の創設に関する意見書」などを可決し、12月12日閉会しました。

数の力で国会運営

安倍政権は、臨時国会を『成長戦略を論議する』としていました。安倍首相らの思い入れが強いとされ



一般質問で自治のあり方や公共事業などを質問(12月3日)

る特定秘密保護法を会期中に提案し、疑問や懸念を、数の力で押し切るという強権的な国会運営で成立させました。また、臨時国会では、国土強靱化法や、社会保障制度改革国民会議の報告と連動する社会保障プログラム法も成立しましたが、この内容を見れば、消費税増税分が、大型公共事業に振り向けられようとしており、その一方で、社会保障分野ではサービスの切り捨て・切り下げと、国民の負担が増すような方向性が打ち出されています。

政治の暴走は地域破壊

さらに、TPP参加や米政策等の農業政策の拙速な見直しによって、北海道をはじめとする地域の一次産業は、より厳しい状況に陥ることが心配されます。国民や地域に冷たい政治が、数の力で暴走すれば、道民

生活や地域は破壊の危機に直面することになります。

定例会では、こうした課題について議論を展開しましたが、知事の答弁からは、道民、地域の声を背にして、国に論戦を挑んでいく気概も姿勢のかけらも見られませんでした。道政まで、国の言いなり、国に要望するだけで、主体性に欠け、道民や地域に冷淡な姿勢であってはなりません。

第4回定例会で可決された補正予算

(単位：千円)

項目	一般会計	特別会計	合計
既決予算額	2,709,633,443	587,095,306	3,296,728,749
今回補正額	22,651,410	2,019,639	24,671,049
合計	2,732,284,853	589,114,945	3,321,399,798

一般質問の概要

問 広域分散型の地域構造や、小規模な自治体が多いといった本道の特性を踏まえ、北海道にふさわしい新たな自治の姿が必ずと考えるが。

答 本道の地域の実情を踏まえ行政体制の充実に向け、市町村間の広域連携の取り組みなどを支援していくとともに、北海道地域振興条例などの改正を視野に、来年度中に自治の姿に関する関係条例の整備に向け、検討を進める。

問 労働者の雇用の場の確保や、建設業の安定経営、効率的で品質の高い工事の確保の観点からも、工事施工に適した春から夏にかけての工事量を確保すべきでは。

答 ゼロ国債やゼロ道債を活用し、早期発注に努めるとともに、地元調整などにより、やむを得ず発注が遅れる場合は、可能

な限りの繰越制度を活用し、適期施工の推進に努める。

採択された決議・意見書

- 中国による防空識別圏の設定に抗議し撤回を求める決議
- TPP協定への参加に関する意見書
- 私立専修学校に関する新学校種の創出と財源措置に関する意見書
- 外国人技能実習制度の見直しに当たっての意見書
- 経営所得安定対策の見直し及び日本型直接支払制度の創設に関する意見書
- 将来にわたり医療提供体制を守ることを求める意見書
- 子宮頸がん予防ワクチンの接種の慎重な検討と重篤な副反応の被害者救済を求める意見書
- 水痘など4ワクチンの定期接種化に関する意見書

我が会派では、「民主主義の根幹を揺るがす特定秘密保護法案に対する意見書」を提出し、同法案の撤回等を求めました。採決の結果、フロンティア、北海道・大地、日本共産党の賛成を得ましたが、自民党、公明党の反対で否決されました。



士別消費者協会設立30周年(10月25日)



林活議連として全道植樹祭に参加(10月12日)



富良野市功労章表彰式(11月3日)



士別市功労章表彰式(11月1日)



原発でドイツ・フランスを視察(12月15-22日)



中国・黒竜江省を訪問(11月10-16日)



伊藤喜代志比布町長再選(12月10日)



早坂純夫剣淵町長初当選(12月1日)



← 士別児童館クリスマスパーティーで餅つき(12月7日)
→ さっぽろ市士別ふるさとの集い・交流会(10月26日)



写真で振り返る北口道議の活動記録(10月〜12月)

北口ゆうこう奮闘日記

http://y-kiaguchinet/

北口道議の奮闘ぶりをブログから抜粋して紹介します。(10月～12月分)



金子さんとコトブキ 13-P301

◆10月13日【サフォーク共進会】▼北海道サフォーク種羊共進会は、ひつじの中でもサフォーク種のみで共進会で、道北地区めん羊協議会(小野寺英夫会長)が主催して開催された。このサフォーク種羊共進会には、当歳雌、当歳雌、明2歳雌、成雌、種雄の5部門で争われ、土別市のほか、美深町や羽幌町焼尻から24頭のサ

フォークが参加した▼当歳雌の部門では、株式会社サフォークが所有し、金子雅志さんが飼育している『コトブキ13』P301』が優勝した。

◆10月20日【つくも山清掃奉仕】▼つくも山を守る会



野鼠から桜を守るネット張り作業

(川副春男会長)は、春と秋、そして冬につくも山を守る作業の奉仕活動を行っており、今日は本格的な冬を前に、看板のビニール張りやトイレの清掃、社務所周辺のゴミ拾い、そして市民が植えた桜の苗木を野鼠から守るためのネット張り作業などを行った。

◆11月8日【林野労組&上富良野地区連合会】▼林野労

組上川中部分会の定期大会で鹿股委員長は、「林野会計は今年から一般会計化となり、業務量は増えたが要員は増えておらず、厳しい労働環境となっている。一般会計化による問題点を洗い出し、職場改善の取り組みを進めていきたい」と挨拶された▼また、上富良野連合の定期総会で藤原会長は、「衆参の選挙で大勝した安倍政権は、反動的政治をあらわにしている。アベノミクスで景気が上向いたと言いが、私たちの生活は苦しくなる一方だ。このような時こそ、仲間を大切に、運動をしっかりと進めていこう」とお話しされた▼それ



林野労組上川中部分会定大で挨拶

その大会で私は、「先日、自民党の石破幹事長の講演を聴いた。憲法感や、社会保障、農業政策の方向性など、目指すべき方向性が全く異なる。生活者や働くものの代表として、しっかりと頑張る」とお話しした。

◆12月13日【宗谷線ブロック協議会】▼全上川農民連盟



宗谷線ブロック協議会例会で挨拶

宗谷線ブロック協議会(議長・小池照昭剣淵農連委員長)の第2回例会に出席し、意見交換と懇談を深めさせていただいた▼宗谷線ブロック協議会は、和寒町から名寄市までの全上川農民連盟に加盟する8組織で運営しており、議長は持ち回りで担い、今年は剣淵農民連

盟が担当している▼今日の例会では、1月に行われる定期総会や地区の役員選挙世話人などを決定した。また、意見交換では、農政改革の問題点や補正予算などについて私からお話しさせていただきました。それぞれの課題などを伺ったことだ。

【つづい】

▼11月2日、石破茂自民党幹事長のお話を聴く機会を得た。演題は「真・政治力の“手の内”」喫緊する課題への道筋▼持論である憲法改正の必要性、有事や大災害時は国民の権利や行動を制限する必要があり、自助・共助・公助の社会保障、所得アップのために少ロットの作物を多品種作付ける農業など、雄弁に語っていた▼話を聞きながら、改めて国民よりも国家を、生活者よりも大企業を、地方よりも大都市を、大切にする姿勢が明らかになった▼民主党政権は、人を大切に、誰にでも「居場所と出番」のある政治を目指していた。その方向性に間違いはないと信じている。要はそのに至る手法が幼稚だったのだから。改めて、生活者や地方を大事にする政治を目指す。これが必要なのだ。(ゆうこう)